

profile

すずき・あつこ●1987(昭和62)年新潟県生まれ。大学院にて物質環境化学を専攻。地元での就職を希望するとともに、自身の研究を未知の領域で生かすことを期待し、(株)本間組へ入社。技術部に3年間配属された後、土木事業本部土木部に異動。浚渫工事の現場等を経験し、現在は新潟港海岸(西海岸地区)突堤築造工事に従事している。



鈴木が現場で心掛けているのは、話し掛けやすい雰囲気であること。笑顔や声掛け、小さなコミュニケーションの積み重ねが現場を変える。

輝け! けんせつ小町

現場監督

鈴木敦子

株式会社本間組  
土木事業本部 土木部 工事課



「けんせつ小町」は、日建連が定めた建設業で活躍する女性の愛称です。



建設業界で働くといっても、生かせる知識や経験は建設に直接関わるものだけとは限らない。まるで関係のないような視点も、新たなアイデアを生むこともある。化学の世界から建設の世界へと飛び込んだ鈴木敦子さんに、その可能性や面白みについて語ってもらった。

建設業界で生かせる化学とは

経験してきたものとは異なる世界へチャレンジする時。不安に思う人もいれば、ワクワクする人もいます。分からないからこそその楽しみに胸を躍らせ、建設業界へ就職した鈴木。彼女は化学専攻で修士課程を修了し、この道を選んだ。「大学は栃木でしたが、生まれ育った新潟で働きたくて。地元の企業を探さなかつたので、本間組が化学専攻者を募集していることを知りました。なかなか目にするものがない募集枠に興味を持つたんです。どんなことができるんだろうと、可能性を感じました」

建設業界で化学の力を生かす。分かりやすい例を挙げれば、分析・研究業務がそれにあたる。一般的に土壌の有害物質検査などは外部委託することが多いが、自社で行うことで知見を得ていくことが期待されている。そういった取り組みを活発化しようとするタイミングで鈴木は入社した。

技術部に配属された鈴木は、まず建設のイロ

ハを学ぶため、図面のチェックや修正、コンクリートの強度計算を担当した。入社直後に苦心して描いた図面は、先輩社員から「センスがない」と一蹴されてしまったこともあり、深刻に悩んだ時期があったと苦笑い。「センスって何なんだろうね」と言いながら、鈴木は当時を振り返る。

「簡単に言うと、いかに見やすいかとか、それで仕事しやすいか。文字の大きさひとつも、重要なんですよ。それが、センスなんだなって、何度もやるうちに感覚をつかんできました」見よう見まねから始めた彼女も、今では後輩を指導する立場に。同じく苦労する後輩たちを見守っている。

「気付いたら私も言ってるんですよ。『もっとセンスのいい図面にしようよ』って(笑)」

誰かのために、仕事を形にする

鈴木は三年間技術部に所属した後、土木事業本部土木部へ異動となり、現場監督として新たなスタートラインに立った。分析業務と直接的に関わるわけではないが、現場を知らずして建設は語れない。浚渫工事の現場を経て、現在彼女が携わるのは、新潟港西海岸での侵食対策事業。海岸に突堤を築造し、海岸にある砂の移動を抑制することで、砂浜を保護するのが目的だ。自身が携わる突堤の着工は二〇一八年だが、事業そのもののスタートは一九八六年。鈴木が

my Beginning

私がこの仕事を選んだ理由

「化学×建設」で、何ができる?



上／「写真を撮りましょう！」という鈴木への掛け声で、オフィスの反対側からも駆け足で人が集まりたちまち皆笑顔に。前列左端が諸橋作業所長。右／消波ブロックを移設する際は、一つひとつの重さ、破損の有無を確認して記録する。



取材当日の天候は、あいにくの雨。海岸に積んである消波ブロックの移設工事を鈴木は念入りに記録し、スタッフと状況を確認し合う。

# my Growing

私が建設業界で学んだこと

## 人々の生活に関わる手応え

生まれる前から続く事業を、長い歴史のなかで、彼女は受け継いでいる。

「現場に出た時は、経験も知識もなく、しかも女性ということでも不安がありました。ただ、地元の人のためになつていっていると感ずることがやりがいとなり、『やってやるぞ』と原動力になりました。今まで味わったことのない達成感があると語ってくれた背景には、大学院時代のある想いが関係していた。

当時の鈴木は、毎日白衣を着て研究室にこもりきり。自分たちの研究は世の中の役に立つものなのだと信じてつても、どこかその実感が湧かなかったと言う。扱うものは、分かりやすいプロダクトや造形物にはならない。エンドユーザーの反応も見ることができない。人の生活に関わる手応えが感じられない毎日だったという。もっと、誰かとながっている実感がほしい。その気持ちは現場に出るから昇華される。

「日々現場が変わっていくのが目に見えることに、大きな喜びを感じます。また、地元の方が現場見学会に来てくださることもあるので、参加者の反応を見ているのも楽しいですね。工事に興味を持ってくれて、驚いたり学んだり、リアクションがある。そのたびに気持ちを新たにすることが出来ます」

今回の工事は、この夏の気象の乱れが大きかったことにより予定変更を余儀なくされている。しかし地域の人々も、彼女自身も、工事の竣工を日々心待ちにしている。

### 女性も男性も、働きやすく

これからはずっと仕事を続けていくためには、どんなことが必要だろうかと鈴木に問うと、「きちんと休める環境だと思おう」と強く言う。女性が少ないとはいえ年々着実に増えており、女性用トイレや休憩室等の設備面は飛躍的に整備された。一方で、あまり進んでいないのが安定的に休暇を取得することだ。

「女性に限らず、みんなが働きやすい会社を目指すなら、休みを計画通りに取れる仕組みや空気をもっと必要。業界や会社としても様々な取組みを進めているところですが、これからはどうすれば休みを取れるかを私も含めてみんなで考えていきたいですね」

働く地域によっては工程が天候に左右されやすいこともある。やりがいがあり楽しく仕事をできているが、きちんと休みが取れなければ健康に、長く働き続けることは難しい。

### 現場監督としては一人前 次は、化学の力で現場をつくる

鈴木を日々見守る上司が、諸橋作業所長。海洋土木のベテランであり、鈴木への働きぶりに大きな信頼を寄せている。

「船酔いする鈴木さんの体質だったり、女性が少ない環境であったり。最初は期待よりも、



現場を同じくする先輩2人は、海洋土木のスペシャリスト。心強いサポートもありながら、着実な成長ができています。

### my style

5年程前から多肉植物にハマっています。ぷっくりとした葉、個性的な見た目、予想外な開花、気が付くと成長している彼らは育てていて本当に面白いです。休日には園芸店巡りや鉢の彩色、子株の手入れなど、多肉生活を満喫しています。最近、新たに2種類が仲間入りし、更に賑やかになっています。



個性豊かな形が魅力の多肉植物たち。

心配のほうが大きかったです。でも今では、図面を描くスピードや決断する速さは年次以上。立派な現場監督で頼もしいです」。鈴木はもう一度同じ工法の工事をしたら「次はもっとうまくいく」と笑顔で答えてくれた。

化学の道は、学生時代で修めた。現場での仕事も、一通りできるようになった。鈴木が次にやるべきことは、その掛け合わせだ。

「やっと、やりたいことをやれる段階にきました。両方の視点からのアプローチを考えられることが、私の大きな強みです」

化学の力を建設業界で生かしたいという期待を胸に、初心を忘れず働く鈴木。この先、その強い意志と得意分野を武器に活躍する姿が想像できた。

**my Growing** 私が建設業界で学んだこと